私は貝にならない

「映画の批判ではありません」

Ｚ10　　２００８．１２．５　　ＪＲ東海労東二運分会

いま、中居正広主演の「私は貝になりたい」という映画が上映されています。組合員Ｂさんから聞いた話を紹介し、ＪＲ東海＝東二運の職場に置き換えて見てみたいと思います。

Ｂさんは４０年ほど前にフランキー堺主演の映画「私は貝になりたい」をテレビ放送で観たそうです。映画は、戦争の悲惨さを訴え、戦争反対を強く打ち出していたことを覚えているそうです。なかでも、最後に豊松が言った
「お父さんは生まれ変わっても、もう、人間になんかなりたくありません。人間なんていやだ、牛か馬のほうがいい。いや、牛や馬ならまた人間にひどい目にあわされる。どうしても生まれ変わらなければならないのなら、いっそ、深い海の底の貝にでも…そうだ貝がいい、貝だったら深い海の底の岩にへばりついているから何の心配もありません、兵隊にとられることもない、戦争もない。房江や健一のことを心配することもない。どうしても生まれ変わらなければならないなら、私は貝になりたい…」、という言葉が強い印象として残っていたそうです。

しかし、当時Ｂさんは「貝」になりたいということをあまり意識してはいなかったものの、最近同名の映画が注目を集めるなかで４０年前の自分と比べ、今の自分と、会社や職場の状態をあらためて見直し、豊松が、生まれ変わるとしたら人間でも牛でも馬でもなく、なぜ「貝」でなければならなかったのかを考えたそうです。

豊松は裁判のなかで「上官の命令は、天皇陛下の命令です。絶対服従しなければ…」と訴えたが無駄だった。戦争中の出来事を、敗戦後の裁判で一方的に裁かれ絞首刑という全く理不尽な結末に対する、豊松のせめてもの抵抗と悔しさの表現だったかもしれない、とＢさんは思ったそうです。

ＪＲ東海ユニオンのみなさん！　職場はどうですか？

この映画の基は５０年前のテレビドラマです。深い海の底の岩にへばりついた「貝」になりたい、は当時では精一杯の表現だったのかもしれません。しかし今は違います。組合員として自由に自分の考えを言えるのです。「貝」では駄目です。

海底にへばりつくのではなく、海面に顔を出し陸に上がって声を大きく出し、自ら行動し職場を変えましょう。